

WIN CONCORD
ウィンコンコード

NEWSLETTER

2009
vol.19



多文化共生の地域づくり

多文化共生コーディネーター 時光(中国)

大学生時代の私は、外国人とはイコール自分のような留学生のことだと思っていました。留学生を支援するボランティア団体の活動しか目にすることがなく、外国人支援とは直接留学生に手を差し伸べる活動だと考えていたのです。

しかし、地域の国際交流協会に勤め、日頃の業務を通して、自分が外国人でありながら「外国人」のことが何も分かっていないことに気がつきました。もちろん全ての外国人が要支援の対象ではないのですが、DVに苦しむ日本人配偶者のアジア系女性、生活が不安定な日系人労働者、低賃金で深夜まで残業する企業研修生、そして日本の学校に馴染めない子どもたち……。私は毎日のように外国籍住民の生活の大変さを肌で感じ、その厳しい現状を思い知らされました。

平成19年末現在における外国人登録者は215万2,973人で、過去最高記録を更新し、日本の総人口の1.69%を占めています。

都道府県別で見ると、愛知県、東京都、三重県、岐阜県、静岡県における外国人登録者数は、県総人口の約3%にまで達していることがわかります。外国人全体の28.2%を占める中国人に続き、韓国・朝鮮、ブラジル、そしてフィリピン出身者が上位にあります。(法務省外国人登録統計より)これらの外国人は長期滞在化しており、日本での生活が根付いているように思います。彼らは日本で働き、生計を立て、子どもを育て、製造・サービス・医療・技術など、様々な分野において日本の社会を支えています。少子高齢化が進む日本の社会にとって、外国人労働者が貴重な労働源となりました。外国人の受け入れ体制や生活基盤を固めるための環境整備をいかに改善できるかが、今後の日本社会の発展に大きな影響を及ぼすこととなるでしょう。

このような状況の中で、自分たちの地域をどう守っていくのかを考えたとき、日本人、外国人を問わず、あらゆる地域の構成メンバーが当事者となり、国や文化を超えた多文化共生の地域づくりが大事になるのではないかと思います。

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。(出典「多文化共生の推進に

関する研究会報告書」)

多文化共生は外国人の支援策ではありません。外国人をサポートすることによって、日本の地域社会の活性化を図ることが多文化共生のねらいです。看板にふり仮名をつけることで助かるのが外国人だけではなく、日本人の子どもにも分かりやすい。外国人に優しい地域は、日本人にとっても住みやすいと考えられます。

今日、多文化共生を推進する役割を担っているのは、主に地域の国際交流協会、NPO団体、一部の行政やボランティアです。残念ながら日本語学習問題、文化の壁、外国人労働者雇用問題、法制度・社会制度など、外国籍住民を取り巻く課題が数多く残されているのが現状です。多文化共生地域の実現は、国の明確な政策と自治体の取り組みが重要です。外国籍住民が安心して暮らせるための社会システムをつくるのは長い時間がかかるかもしれません。大事な成長段階を迎えている不就学の外国人児童生徒、派遣切り、使い捨てにされた大量の外国人労働者、地域の日本人住民とのトラブルなど、今日に見えている外国籍住民を巡る諸問題は氷山の一角にしか過ぎません。問題が顕在化するころには、もう手遅れになっているかもしれないのです。国や自治体が問題意識をもつまで、じっと待っていることはできません。問題が起こる前に、まず私たち自身からアクションを起こさなければならないと思います。そのためには、意識の高い一部の地域国際化協会、行政機関、企業、民間団体、ボランティアなど、様々なセクター・関係機関との連携を図りながら、最前線で外国籍住民への支援活動を粘り強く進めていくことが大事だと思います。

現在、多文化共生推進の現場ではほとんど日本人の姿しか見えません。日本人の努力だけでは、本当の多文化共生社会を築くのは不可能でしょう。外国籍住民が当事者意識をもって日本人と対等な関係で話し合い、協力し合ってはじめて多文化共生につながる、と考えます。日本人には、まわりの外国人ともっともっと話をし、日頃の業務・活動に反映してもらいたいし、外国人スタッフの採用、人材発掘・育成にも取り組んでももらいたいと思います。外国人には、サービスを受ける側ではなく、支援する側にも回ってもらい、自分たちの地域に関心をもって、まわりの日本人と協力しながら多文化共生の地域づくりに力を貸してもらえればと願っています。そして、私自身も外国人スタッフの一人として、多くの方に外国籍住民の声を伝え続けたいと思います。

和歌山での思い出

丁 敏 (中 国)

皆さん、こんにちは、私はミンミンと申します。19歳で和歌山へやって来て、今までもう6年が経ちました。和歌山で過ごした6年間は私の宝です。

私費留学生であるため、日本での生活費や学費はアルバイトで補うしかなく、初めは、そういう辛い生活に慣れなくて、いつも国費留学生や奨学金を持っている留学生を羨ましく思うばかりでした。特に、学部生の頃専攻の勉強は難しくて、アルバイト先で人間関係はうまくいかなかったり、生活上いろいろ問題と出会ったりすると、何もかも嫌になる時期もありました。一体何のために日本へ来たのか毎日のように自分に問い続けました。幸い、自分の心と戦っているうちに、私の考え方は変わりました。人はみんな違う、当然与えられたことも違います。ですから、他人を羨ましく思うのではなく、自分に与えられたものの範囲内で根気よく、楽しく活動するというプラス思考に変換したのです。その考え方は魔法のように、私のすべてを変え、ようやく和歌山での生活も楽しくなりました。

大学院での勉強は私にとって新たな試練でした。所属しているコミュニケーションクラスでは、自分の分野の研究はもちろん、それとは別に、究極的なコミュニケーション術を学ぶことを目的とし、自分の専門の研究を専門外の人にも分かって

もらうように発表する訓練があります。毎回10人の先生の前で発表し、質疑に答えなければならないのです。最初は準備不足で、いつも先生らから厳しい指摘をうけ、怒られてばかりでした。発表の時の恥を少しでも少なくしようと思って、休日を犠牲して学校で一人で居残って勉強することが多かったのも、とても寂しい思いをしました。しかし、そういう日々の積み重ねのおかげで、私は段々発表に慣れて、修士卒業発表の場の質疑応答も簡単にパスできたのです。発表後、先生らにも褒められて本当に嬉しかったのです。

本来、家族と離れ、外国で勉強し、ホームシックになるのは普通です。しかし、和歌山で、私はそれを一度も感じたことはなかったのです。それは、WIN コンコードをはじめとするボランティア達のおかげです。彼達は家族のように、私達のために部屋を斡旋してくれたり、各種のパーティーに誘ってくれたりします。彼達はいつも私に“今君を助け、将来得意な事ができたら、もっと沢山の人のために役に立ってください”と言ってくれました。彼達の助けにより、私の生活は変わりました。そして、何よりも私の心も変化したのです。初めは余裕がなかったせいか、自分のため勉強、生活することばかり考えていたのですが、徐々に自分は他人のため何ができるのかと考えるようになったのです。自分の専攻をもっと勉強し、将来この分野のプロになって、私を必要とする人間を助けたいという自分のキャリア志向の完成によりようやく自分はこの世に存在する意味を見つけたのです。



和歌山でのアルバイト生活は私を強くさせ、学校生活は私に我慢を教えてくれ、そして、和歌山のボランティア達との出会いは、私の心を豊かにしてくれました。ですから、和歌山での思い出は私の宝です。これから新たな旅が始まります。

さようなら、和歌山、私の第2の故郷！

ボンジュール、中国地方！

アンジェロ ノガラ（フランス）

3月23日の午後3時半に三次市のバス駅に着きました。バスが予定より20分早かったので、まだ誰も迎えに来てくれていません。丁度3時50分に雄矢君が現れ、乗っている緑色の車を止めて、笑顔で「ハロー」と言って車に乗せてくれました。

雄矢君は高校二年生で、来月からサンフランシスコでホームステイすることになっているのですが、英語が苦手なフランス人である僕に「サバイバル英語を教えてください」と頼んできて、二週間ぐらい毎朝僕と一緒に一生懸命英語を勉強していました。僕は、冬休みの間はずっと大阪のプロテスタントの友達の家で、同じキリスト教徒同士としてホームステイさせて頂きながら、東京と北海道への旅行の計画を立てていましたが、ある日雄矢君が「ぜひ広島に遊びに来て下さい。いろいろ案内しますよ。」と言って、自分できれいに書いた四日間の旅の詳しいスケジュールも渡してくれました。僕は「よろしくお願いします」と喜んで提案を受けました。

雄矢君の故郷は三次市だから、最初は三次のいろいろな所に連れて行ってもらいました。まず三次のワインハウスに行ったのですが、そこで雄矢君は、セミヨンという三次のワインの作り方を説明してある看板の難しい日本語をもっと簡単な日本語やボディランゲージに精一杯訳そうとしてくれました。そして、ただでいろいろな種類のワインを試飲させてもらいました。フランスのワインと比べ物になりませんが、甘いロゼーは悪くはなかったです。その後で、近くの店でうまいブドウのアイスクリームを味わってから、その地域で有名な灰塚ダムの方に向かいました。ダムを車で回りながら、素晴らしい景色が楽しめました。ダムに着いたら、そこで「二人占め」して、雄矢君は散歩しながら子供の時の思い出を話してくれました。彼がよく川で釣ったり、山で果物や植物を摘んだり、自然についていろいろなことを教え



てもらったのを聞いて、フランスの産業的な地域で生まれ育った僕は羨ましく思いました。

雄矢君の家族からとても温かい歓迎を受けました。お母さんもおばあさんもおじいさんも親切で、毎日朝御飯も晩御飯もご馳走して下さいました。そして、毎晩気持ちいいお風呂に入らせて頂いて、居心地のいいゲストルームに泊まらせて頂きました。雄矢君はいろいろ案内してくれたうえに、毎朝僕と一緒に聖書読みと祈りをするために早起きもしてくれました。非常にありがたかったです。

二日目の朝は広島へ行きました。様々な百貨店や近代的な建物に囲まれた大通りを通りながら、崩れかかった様子の原爆ドームを見かけると、びっくりしました。車を駐車して、直接平和記念資料館に行きました。フランスでは中学校の時から広島と長崎に原子爆弾が投下されたことをただの事実として知っていましたが、もっと具体的で恐ろしい真実に触れると、かなりの衝撃を受けました。その時に人間の命の尊さが無視されて、一つの町とその全ての住民たちがそれほど無関心で、無慈悲で破壊されたことにあきれてしまいました。何の理由があっても、決して人間同士をそのように苦しませて、滅ぼしてはいけないと思いました。毎年8月6日に広島市長が言明するように、広島にどんなことが起こったか悟ると、地獄がどのようなものか想像できるようになると思います。平和記念公園を散歩しながら、僕が丁度そういう先例のない悲劇が起こった場所に立っていることを考えると、ぞくぞくしました。

おいしい焼きそばの入った広島風のお好み焼きを食べてから、車で厳島の方に向かいました。フェリーに乗る前に、厳島というのは写真でよく見た海の中に建っているあの有名な鳥居の所だということがわかったと、テンションが非常に上がってきました。フェリーが厳島に近づき、山を背景にして赤い鳥居の姿がだんだんはっきりと見えるよ

“繋がった”二日間

呉 青湖 (中国)

うになるのは何とも素晴らしい眺めでした。上陸して、神社の方に歩きながら、おいしい厳島の焼きガキやら有名なもみじ饅頭やら食べてばかりでした。目的地に着いたら、雄矢君は鹿の糞を指しながら、「dangerous zone!」と注意し、神社を案内してくれました。その後で、砂浜をうろうろしながら、鳥居や神社や自由に歩いている鹿という美しい景色を楽しみました。

その日の夜に雄矢君は家の近くの山に連れて行き、完全に晴れた素晴らしい星空を見せてくれました。夥しいピカピカと輝く星を仰ぎながら、アブラハムという聖書の信仰の人のことを思い出しました。絶望したアブラハムは神様に外に連れて行かれて、「空の星を数えてみなさい」と命じられ、自分の限界を認めると同時に、神様の全能の力を悟って、神様の祝福の約束を信頼するようになったという話です。雄矢君は「それを見るたびに、なんか心が癒される」と言ったので、「まさにそうだな」と深く感じました。

24日の朝、雄矢君のおじいさんの車に乗って、三人で石見銀山に行きました。雄矢君のおかげで原爆ドームと厳島神社と石見銀山という三つの世界遺産を見ることができました。しかし、石見銀山自体よりあそこへ行く道の方が印象に残りました。森に囲まれたきれいな水の川に沿って山を登りつつ、「日本人の森林浴」という雄矢君が教えてくれた森林を楽しむ心の状態を体験できました。僕が「雄矢君がそのような環境の中に住んでいて羨ましい」と言ったら、雄矢君は「実は僕は自然が好きだけど、友達に自然に慣れちゃって都会の方がいいから、今はあまり山の方には行かなくなった」と言いました。僕は、残念だと思いました。それから、石見銀山を去って、出雲大社に行きました。雄矢君と注連縄に硬貨を投げ付ける競争をしてから、珍しく人が少ないので、ゆっくり回ることができました。その後、出雲そばを味わってから、三次に戻りました。そこで雄矢君の御家族とみんなで野外で焼肉を食べました。

最後の日、雄矢君は、近くの品の滝に連れて行ってくれました。しばらく石投げ競争をして、雄矢君が五回記録で優勝しました。とても感謝な気持ちで皆さんとお別れの挨拶をして、雄矢君にバスの扉まで見送ってもらって、良い思いに満ちた心で大阪に向かいました。良い思いだけでなく、この旅のおかげで人間の殺し合いの恐ろしさとかばかしさについても考えさせられて、周りの人に平和のメッセージを伝えるという聖なる使命を果たしていきたいという願いも抱くようになりました。

2月12日の朝、私たちは目が覚めていない状態でバスに乗って名古屋に向かった。バスの窓からは山の風景が広がり、その雄大さに心を奪われ、時間の経過も忘れるほどだった。

気がつくと、第一目的地トヨタ自動車名古屋オフィスに着いた。そこで、展望台まで上がって、日本で第三都市である名古屋の風景を眺めた。その後、ロビーでレクサスのジープを間近で見ることができた。次は、第二目的地トヨタ名古屋自動車大学校（以下は自動車大学校と呼ぶ）に向けて出発した。

目的地に着いて、歓迎式典をして頂いた。自動車大学校の留学生13名と立食パーティーで大変楽しく交流ができた。自動車大学校は、サービスエンジニアを育成するトヨタ自動車の直営校ということもわかった。それから、現場の見学が始まった。

私たちがまず見学したのは5号館4階——そこには、ほぼ350台の車が並んでいた。その中には、ハイブリッドカーが含まれていた。この車は、学生たちの実習用だと聞いた。そこで、トヨタの精密な塗装技術だけではなく、車がちょっと傷ついてもダメという日本人が完璧を追求する気持ちもわかった。その次はエンジン実習場に行った。そこは、初めて来る人は絶対ショックを受ける所だった。エンジン実習場には車の形が見えるものがなかった。並んでいるのは車の核心部品エンジンミッションだった。不思議なのはなぜエンジンにそんなに多くの回路線があるかだった。それは、現在の車には、多くの電子制御装置があり、それを回線で繋いでいるために、多くの回線が見られた。車の故障診断もコンピュータで行なっている。最後は車両実習場を見た。そこは、車両性能試験室、検査ライン、動力計室があった。そこで、じっくり車の性能、動力を納得いくまで実習を繰り返して、最先端技術を修得するところだった。最後は学校の先生たちへの質疑応答だった。車の世界と車の未来についてもっと理解できた。

バスは名古屋を出発し、まもなく山の中に入った。バスの窓からは、雪に覆われたホワイト世界が広がった。ホテルに着いて、温泉に入って、浴衣着て、みんなで食事した。料理は美味しくて、ビールもとてもうまかった。食事後、カラオケに

行った。カラオケは最高潮に盛り上がる歌「Y.M.C.A.」で終わった。それで部屋に帰ってぐっすり寝た。夜中に明日スキーする時いっぱい転んだ夢を見た・・・

次の日朝6時に起きて、食事後スキー場に向かって出発した。朝のスキー場は天気も良く絶好のスキー日だった。私たちほとんどは初心者なので、午前中はレッスンを受けた。立つ、滑る、止まる、方向転換・・・スキーの基本を勉強した。レッスンを卒業した人はリフトに乗って、坂道でスキーをするようにした。私は最初の卒業生として、花田さんの指導で坂道を滑った。最初は、初心者の坂道で滑った。「頑張って、張り切って、思い切って自信を持って滑ればきっと大丈夫、たぶん大丈夫」と、自分で自分に言い聞かせた。初心者の坂道はあまり急な坂がなかったので順調に滑って無事にゴールした。自惚れた私は、一番高い坂道に挑戦した。「2回目だから慣れてる、いける、大丈夫！」と言いながら急な坂を滑って降りた。速い！と思った瞬間足がズルッとなって転んだ、一回、二回・・・四回、回転した後やっと止まった。こんな美しいポーズは二度としたくないけど、何回も繰り返した。リフトに何回も乗ったが帰る時間になった。その時の私たちは服が汗でびしょりになった。「楽しかった」と言いながら、みんなは名残惜しげにバスに乗った。

二日間の見学とスキー旅行とで、留学生一人ひとりの顔も耀きに満ちていた。留学生同士、留学生と日本人学生、留学生とWINコンコードメンバー、留学生と日本人、様々な笑顔の輪が広がり

を見せ、そして“繋がった”。

人が繋がり、時代が繋がり、信頼や思いやり、いろいろな物が繋がり、そして広がった。そんな思いを強烈に感じたこの二日間だった。

今回、WINコンコードのおかげでトヨタ名古屋自動車大学校の見学とスキー旅行に参加できて、有意義な二日間を過ごすことができ心より感謝しております。

世界金融危機

ハキーム エマヌエル（ナイジェリア）

このレポートでは、近年の世界金融危機、あるいはグローバル経済不況に関する報道において頻繁に使われている単語を簡単に説明したい。また、発展途上国への影響についても、できる限り分析してみたい。

まず、サブプライムローン（米：subprime lending）の定義から説明する。

サブプライムローン（米：subprime lending）という単語は、米国でよく使われている言葉で、低所得者向けのローンを示す。

米国では、お金の貸し出しは2つのカテゴリーに分けられている。ひとつ目は優良な顧客（プライム層）へのもの、二つ目は優良でない顧客（サブプライム層）へのものだ。今回のサブプライムローン問題の始まりは、この低所得者向けローンの



返済が滞る事態が増加したことにある。

何故返済ができなかったのだろうか？

2007年、2008年の世界の経済状況、および天災の影響により、米国では所得が変わらないまま物価が高騰した。その結果、ローンを利用して住宅や車を購入した人々は、生活苦のためにローンを返済する余裕を失ったのである。

原油価格の高騰は、あらゆる生産・流通コストに影響し、世界経済を圧迫した。

企業はいち早くリストラを行い、多くの非正規雇用社員、正社員を解雇。また物価の高騰が、生活に不可欠な食料や光熱費などの生活費に大きな負担を与えた。仕事を失い生活に困窮する低所得者層は、ローンの返済ができず住む家を追われ、また融資した側の銀行や不動産業者も、返済の焦げ付きから破産に追い込まれる悪循環に陥った。

次に、保護主義（米：Protectionism）あるいは保護貿易（trade protection）。

国内産業を保護したり促進したりすること、またその為に外国製品を輸入する際に関税などの交易障壁を設ける貿易を行うことを言う。（この制度の対義語は自由貿易）

最近の米国のニュースで、オバマ大統領は“buy American products”という発言をしている。

本来、保護主義は国内経済向けの制度である。世界中であらゆる商品や人材が取り引きされる現代資本主義の時代にあつて、米国はグローバル化を見捨てるつもりなのだろうか？この流れは世界の経済制度に影響を及ぼさないだろうか？

米国が保護主義制度に移行する理由は、国内企業の成長を促し、国産商品の需要を伸ばすことが国内経済に良い影響をもたらすと考えるからだ。米国経済が持ち直すことで、世界経済にも安定がもたらされることを期待したい。

グローバル経済不況と発展途上国の影響

現代の経済不況が及ぼす発展途上国への影響として、直接投資（FDI-Foreign Direct Investments）や間接投資（Indirect Investments）などの外国からの投資の減少、国外移住者からの送金や資本の減少が挙げられる。

直接投資とは、外国の企業に対して永続的な権益を取得する（経営を支配する）ことを目的に行われる投資である。金利や配当、売却益を得ることを目的に外国の有価証券を取得する証券投資、すなわち間接投資とは異なり、直接投資は経営に参加することや技術提携を目的とした株式投資、あるいは資本投資である。それゆえ実質的な部分が国境を越えて動くため、両国の経済に与える影響も大きい。

発展途上国における対外直接投資の具体的な影響について、Wikipedia では次のようにまとめている。（一部要訳）

- ・ 製造業や流通業など、グリーンフィールドでの投資が生み出す雇用創出効果
- ・ 現地への技術移転（特に先進国から発展途上国への投資の場合）
- ・ 外国の進んだ経営手法の流入
日本では1990年代以降「カテゴリー・キラー」といわれるアメリカの大手流通産業が日本に進出、日本の流通業界の経営に大きな影響を与えた。
また、ルノーが日産自動車を買収し、カルロス・ゴーン社長が日産の建て直しを成功させたことも記憶に新しい。
- ・ 製造業で、それまで輸入していた製品を国内で製造できるようになり、さらに輸出産業に発展できれば、経常収支の改善が期待できる。

このように直接投資を受け入れることによるメリットは大きいため、日本を含む主要国は、政策として直接投資の受け入れを積極的に行っている。発展途上国の経済成長は、外国資本の直接投資と間接投資に依存しているため、今の経済不況が間接的に影響を及ぼしている。

意見と感想

今回のグローバル経済不況の問題について、経済学者は様々な解釈や解決方法を示しているが、私はこの問題がひとつの原因からではなく、経済制度そのものに原因があるのではないかと考える。資本主義は発展しているが果たしてこれからもこのペースを維持できるだろうか？今日の世界経済不況の実情を考えると難しいと言わざるを得ない。

資本主義制度によって資金が市場に流れ、世界市場で金融取引が活発に行われる。そうした経済活動が貧困を救い、技術開発の促進といった多くをもたらしてくれる。しかし、資本主義のすべてを見通す力、世界経済の確かな動かし方を知るものは誰もいない。それゆえに私たちは注意しなければならない。

資本主義制度がうまく機能しなければ、今回のような金融危機を招くことになるのだ。

最後に、現代に生きる私にとって今のグローバル経済不況は、避けることのできない問題である。資本主義制度は実に貪欲で、不必要な競争とリスクを奨励する。これは社会制度と社会倫理に悪い影響を与えている。

だが今回の不況を乗り越えることによって、世界の政治や経済制度、それからWORLD ORDERの構造などに良い影響を与えられるかもしれない。

新留学生紹介

ザケア スルタナ (バングラディッシュ)

こんにちは。私はザケア スルタナです。2008年の9月30日にバングラディッシュから来ました。私は今、和歌山大学の研究生です。古賀庸憲教授の指導の下で、魚の寄生虫について研究しています。2010年の4月に教育学部の修士課程に入る予定です。

私は2005年にバングラディッシュ農業大学の水産学部を卒業しました。また、2007年に同大学の水産養殖学部の修士課程を2年間で修了しました。一時的に私は行政下にある水産省の職員として、国家公務員になりました。上司に大学教育の休暇を認めていただきました。なぜなら、私は日本のMEXT奨学生になることを選んだためです。

私は、両親、1才年上の兄、1才年下の弟の5人家族です。両親にとって、私はたった1人の娘です。私は結婚し、夫は韓国のChonnam国立大学の海用生物の博士課程を修了しました。

私の趣味は、料理、旅行、音楽鑑賞、映画鑑賞と睡眠です。私の夢は、考え方と行動において理想的な人になることです。未来の計画は、私の関係している分野でとても良い質の研究を行うことや

障害者の方々を助けるために、親密になることです。もっとも願っていることは、また皆と会うことです。

トゥーザー (ミャンマー)

みなさん、こんにちは。わたしはトゥーザーと申します。ミャンマーのサガインからまいりました。私の専門は化学教育で、今月から和歌山大学の教育研究生になります。

みなさんはミャンマーに行ったことがありますか？ミャンマーは中国の南にあります。ミャンマーの面積は、約68万平方キロメートルですから、日本の2倍くらい大きいです。人口は、約5600万人です。ミャンマーの首都はヤンゴンでした。でも、今新しい首都はネイピードオです。

ミャンマーは仏教の国ですから、たくさんパゴダがあります。1番有名なパゴダは シュウエダゴンパゴダです。ミャンマーは物価が安いです。お米が多いです。ミャンマーの食べ物は安くとてもおいしいです。ミャンマーの有名な祭りは水祭りです。これはミャンマーのお正月の祭りです。毎年4月13日から18日までです。ミャンマーにはきれいなビーチもあります。ミャンマーの人は元気で親切です。ミャンマーの生活は楽しいですから、みなさんもミャンマーに来てください。



ダニエラ 井谷 (ブラジル)

Muito prazer, sou brasileira e o meu nome é Daniela Itani...すみません、今から日本語を使います。前にポルトガル語で短い紹介をしました。意味は日本語で「はじめましてブラジルの井谷ダニエラと申します」。

皆さん、ブラジルは世界のどこにあるか知っていますか？ブラジルは南アメリカで最大の国です、面積は8,511,965km²です。とても大きいですね！ブラジルの首都はブラジリアです。昔、ブラジルはポルトガルの植民地ですからブラジルの公用語はポルトガル語になりました。

私の生まれた町はブラジルのサンパウロ州の南にあります。去年の10月にバレ・ド・リベイラ地区のイグアペ市から参りました。イグアペ市で色々な学校の体育の先生でした。ブラジルのパラリンピックでも働きましたから、今年の4月に和歌山大学の教育学部で障害児教育の教育研究生になります。

6か月前は大阪大学で日本語の勉強をしました。今まで日本の生活はとても面白くて、楽しいと思います。留学生の機会を喜びます。とてもいいチャンスです。

ルセル ジェレミ (フランス)

はじめまして、ジェレミです。二十才です。私の国はフランスです。Champagne (シャンパーニュ) から来ました。パリの近くです。2月27日から8月まで日本でとどまります。システム工学部で物理学を勉強します。

WIN コンコードと和歌山大学のもてなしは素晴らしいです。たけださんとでなわせんせいとなかたにさんとよしのさんは、ほんとうにありがとう。そして、いい人たちにあいました。

要点：日本料理おいしいです。私の友達は語学ラボで料理をした。：たこやき、らめん、あげそば……。みなさん、それではまた！

鄭 秋傑 (中国)

家族：両親、弟と私

趣味：旅行、ハイキング

私は一年前中国福建省から和歌山にきました。和歌山は思ったより小さく、静かです。これは先進国日本と疑いを禁じえませんでした。せっかく日本留学にきましたが、これから田舎で留学生生活を過ごします。あの日、ほんとにがっかりしました。しかし、和歌山の人々が非常に親切で、やさしい人間ですから留学生に様々な支援を提供して



くれました。先生と先輩も親切な人で、お陰様で、私がここに慣れて楽しい一年を送りました。

今年から、私は大学院に入って本格的勉強が始まります。卒業後、日本の会社に就職にして経験を積んで、将来、自分の会社を作ります。

この一年間、お世話になりました。皆さん、ありがとうございました。

ハリム (マレーシア)

マレーシアから来ました。ハリムと申します。4月から和歌山高専から和歌山大学に編入します。僕の州はマレーシアのマレー半島の東に位置しています。僕の州は海亀で有名です。なぜなら、僕の州はきれいな海で囲まれています。島とビーチも有名で一番観光客に人気のあるのはレダン島とカバス島です。ぜひマレーシアに遊びに来て下さい。よろしくお願いします。

ムハマド シャキル ビン ラヒム (マレーシア)
マレーシアのペナンから来ました。

生年月日：1989年6月18日

兄弟の中では2番目の子です。私は一人だけの男の子です。

好きな食べ物は母親の手作りの料理です。好きな飲み物はホットチョコレートです。趣味は釣りとホッケーです。

イズル (マレーシア)

イズルと申します。19才です。生年月日は1989年5月1日です。マレーシアのクランタンから来ました。兄弟は私を入れて5人です。私は長男で、末っ子は7才です。

好きな食べ物はナシゴレンです。Teh tarik がとても好きです。まだ独身です。趣味は卓球とバドミントンをすることです。よろしくお願いします。

ブッタワン (ラオス人民民主共和国)

WIN コンコードの皆さん、初めまして。ラオス人民民主共和国から参りましたブッタワンと申します。来日にして5年目です。東京で日本語を学び、それから、北海道にある旭川工業高等専門学校(高専)を3年間で専門分野や北海道の文化・習慣・伝統・歴史を学ぶことができました。そして、平成21年度の4月から和歌山大学のシステム工学部に3年次に編入学しました。

趣味は読書とスポーツです。大学編入後、専門の勉強はもちろんですが、色々な人々と出会い、様々な国際交流やボランティア活動にも参加したいと思っています。さらに、ラオスと日本との科学技術面での国際交流の推進に力を尽くすことで、両国の交流の掛け橋になりたいと強く願っています。よろしくお願いします。

ギャン ヴ ゴック アン (ベトナム)

皆さん、今日は。私はベトナムからの交換留学生です。アンと申します。日本は初めてなんです。ちょうど桜の花が咲いている頃日本に来てとても嬉しいです。やっと実際に素晴らしい桜を見ることができました。今までの一番強い印象は、日本人はいつもすごくきれいな桜のような笑顔で話し、親切なところですよ。色々お世話になりました、心からありがたい気持ちになります。

日本は何でも自動的に動かす工業国なので、最初はさまざま驚きました。ですが、本当に面白くて便利で、早く生活に慣れたいと思います。これから日本人と留学生と交流する経験を身に付ける機会が多くなるでしょう。困難なことはもちろんありますが、諦めず、一緒に進みましょう。どうぞよろしくお願いします。

Luo Meilian (フィジー)

Bula!!!フィジーより参りました、LUO MEILIANです。3年前、日本に来ました。現在、和歌山大学に通っています。経済学部、3回生です。

趣味は、旅行することで、この3年間、いろんなところへ行きました。日本の最南の沖縄をはじめ、大阪<1年間、住んでいました>、東京<2年間、住んでいました>、北海道まで行きました。その中で、最も気に入ったのは、現在住んでいる和歌山です。なぜなら、和歌山の人達、すごく優しいからです。特に、WINのメンバー達です。いろいろ助けてくれて、本当にありがたく思います。これからも宜しくお願いします。

WIN グループ大好き、和歌山大好き

Victor Ambal Salonoy (フィリピン)

私はヴィクトール・アンバル、34才、混じり気なしのフィリピン人です。私が生まれたのはフィリピンで最も美しく平和で進歩した町のひとつ、カガヤン・ディ・オロで「友情の町」として知られています。

私の趣味は、読書・歌・映画、それから人生におけるモットーは、いつもあらゆることの中心に神をおく、ということです。このことは人生という旅路の道案内をしてくれました。

国では高校の教師で歴史を教えています。教育はまさに私の夢であり、人生における念願でもあります。将来、社会のリーダーとなる若い人たちと知識と知恵を分かち合えるというのは本当に喜びです。

最初に日本に来たのは、2006年、JICAの青年交流プログラムのメンバーに選ばれた時でした。それから「日の出ずる国、日本」にもう一度来たい、という強い願いが叶い、今度は文部科学省の教育研修プログラムの奨学生として和歌山に来ました。新しい環境と経験と私を待つこの地での滞在が、豊かでエキサイティングなものであることを願います。

李 程合 (中国)

私は中国からの留学生で李程合と申します。大連で生まれ育ちました。東北财经大学で二年間日本語を勉強しました。今年は交換留学生として、和歌山で一年間日本語と経済を勉強します。

趣味は映画を見たり、音楽を聴いたりすることです。映画は主人公と一緒に笑ったり、泣いたり、いろいろな人生とストーリーを体験できて、本当に面白いです。性格は明るくてやさしいと思います。日本のお菓子はとても有名なので、たくさんお菓子を食べたいです。

日本に来る前に、ずっと心配していました。初めて日本に来て、何もわかりませんので、留学生活に本当に慣れるかどうか、そういう自信を持っていませんでした。でも、和歌山に来てから、ほっとしました。皆様の親しみと優しい笑顔に感動し、いろいろな友達づきあいをして、本当に楽しいです。

今の日本語はまだ下手です。聞き取れない時もあるし、自分の考えを他人に正しく表せない時もあります。これから、もっと精一杯頑張ります。この一年間、私にとっては、きっと貴重な体験だと思います。これから、皆様といい友達になりたいです。よろしくお願いします。

私のベトナム

グエン チ カム フン (ベトナム)

ベトナムの地理

世界地図を見れば、東南アジアの中央、インドシナ半島の東シナ海沿いに細長く、S字型のベトナムをすぐに見つけることができます。正式名称はベトナム社会主義共和国です。漢字で「越南」(えつなん)と書きます。英語では、「Socialist Republic of Vietnam」、略称は「Vietnam」という国です。

東は、南シナ海に面し、フィリピンと対しています。国土の4分の3は山地で、面積は約33万平方kmです。長く高潔な歴史を持ち、豊かでバラエティーに富んだ自然を有しているベトナムは観光地としても注目されています。(ハノイ首都、ホーチミン市、ダナン市、フエ古都、ハロン湾、ホイアン 古い町、ニャチャンビーチ等)。ここには約8420万人(2006年の調査)が住んでいます。首都はハノイ(Hanoi)ですが、一番大きくてにぎやかな都市はホーチミン市です。現在、65歳以上の人口の割合はわずか5.5%で、若い人の国だと言われています。識字率は約90%強です。

ベトナムと日本の比較

ベトナム	日本
人口：84,238,000人	127,288,419人
面積：329,560 km ²	377,835 km ²
首都：Hanoi(ハノイ)	東京
公用語：ベトナム語	日本語



日本から直行便で、ベトナムのハノイまで、又はホーチミン市まで行くことができます。関西空港から、ハノイ空港まで約4時間かかり、ホーチミン市まで約6時間かかります。現在の往復運賃は約7万から10万円です。

国語

ベトナム語です。

ベトナムではベトナム語が公用語です。昔は、ベトナム語は中国の漢字が使われていましたが、13世紀から、中国の漢字を整理して、喃語が使われるようになりました。しかし、1945年から、正式にアルファベットでベトナム語の発音が書かれるようになっていきます。現在では、ベトナム語の文字はアルファベットで書かれていますが、お寺では、漢字がまだ使われています。

ベトナム語の言葉の順番は英語とフランス語に似ていますが、発音は漢字やフランス語と同じことが多いです。そして、いろいろな他の言語も少数民族によって話されています。

民族

54のグループがあります。

ベトナムは世界で最も人口密度の高い国の一つと言われています。人口の8割以上(86.2%)はキン族と呼ばれる人々で、主に平野に住んでいます。また、他の53は少数民族です。山岳地帯に多く住んでいます。それぞれ、文化、言語、習慣が違います。最大の少数民族には、モン、ジャ、テイ、タイとヌンが含まれます。

宗教

主な宗教は仏教です。

主に大乘仏教が大半を占めており、約80%がそうです。その他、道教、ローマ・カトリックなどがあります。また南部にはホアハオ教や、混淆宗教としてのカオダイ教が教勢を保っています。

気候

地理的位置によって、気候が違います。

北部(ハノイなど)では、亜熱帯性の気候で四季がありますが、気候の変化が微妙です。5~10月は蒸し暑く雨量も多いです。11~2月は霧雨が多くて肌寒く、とても寒い風が吹きますが、雪は降りません。北部の気候は沖縄に似ています。旅のベストシーズンは10~11月です。

中部(フエなど)では、乾季(3月~8月)、雨季(9月~1月)があります。北方は雨が多く、南方は雨が少なく猛暑で、8~9月は台風が多いです。中部の天気は最も大変で、夏は一番暑く、大体35℃くらいで台風も一番多いです(7~10月)。旅のベストシーズンは乾季です。

南部（ホーチミンなど）では、乾季（12～5月）、雨季（6～11月）があります。年間平均気温は26℃くらいです。雨季の前の4～5月が最も暑い酷暑で湿度もかなり高いです。南部の雨は日本の雨と違って、雨が急に大量に降ったりやんだりします。雨のときでも、ベトナムでは、傘を使う人は少なく、ほとんどの人は、レインコートを着ています。旅のベストシーズンは12～3月です。

ベトナムの経済

戦後、1975年4月30日ベトナム社会主義共和国が正式に誕生しました。その後、経済回復政策と国家再建設策のおかげで、戦争で破壊されたベトナムは徐々に復興してきています。

人口の70%以上が農業に従事しています。米の輸出は世界第二位です。今ではベトナムは東南アジアで最も経済成長率の高い国の一つとしても知られています。（2004年8.5%、2006年8.25%、2007年8.5%）

ベトナム人の生活

・生活の中の礼儀

仏教と道教の教義が人々の生活に多くの影響を与えています。例えば、家族の中では、主人と男の人の意見のほうが多いです。学校では、基本的教育目標は礼儀を勉強することであり、二番目の目標は、知識を勉強することです。

・生活習慣

ベトナム人の朝は早いです。大体、7時半に仕事や学校などが始まります。昼休みは大体2時間です。ベトナム人はあまり旅行しませんが、最近お金持ちの人たちは海外によく行きます。

ベトナムでは昔の習慣がよく続いています。最も著しく注目される習慣はお正月です。お正月は旧暦の1月1日です。お米は毎日の主な食物ですが、お正月には、春巻きともち米が、沢山食べられます。もち米を使った特別な食べ物は“Banh chung”と言われています。一年間に一回しか作られません。また、“Mut Tet”という特別なお菓子が食べられます。お正月には、どの家庭にも梅の花が飾られています。子供たちはお年玉をもらいます。家族全員が集まって、お年寄りに御礼をして、お世話になった人に御礼をして、親戚の家に行って食事をして遊びます。

毎年、ベトナムでは子供の祭りも開かれます。旧暦の8月15日に中秋の名月（日本でいうお月見）を開く習慣があります。ベトナム語で「Tet Trung Thu」という名前です。子供達はランタンを持ちながらパレードします。家庭では、家族全員が集まり月を見上げながら食事をして語り合います。この時の特別な食べ物として2種類の月餅がありま

す。ひとつはBanh nuongといい、焼いた茶色い月餅で、もうひとつはBanh deoといい白いです。お月見の時には獅子舞を見ることがもできます。

ベトナムの教育

1945年9月2日にベトナム社会主義共和国が建国され、近代学校制度も始まりました。そして、1981年に現在の教育基本法、学校教育法が制定され、教育の機会均等の理念の実現を目指して、5・4・3・4制の学校教育制度が発足しました。

ベトナムでは、義務教育を具体化する法律により、小学校だけで実施するように定められています。

（障害のある子女の学校も含む。）また、義務教育は無償とすると定められています。無償とは国立学校とともに私立学校でも授業料の無償を意味し、教科書、学用品に必要な一切の費用までは無償としなければならないことを定めたものではないとされています。

戦争のせいで、社会には大勢の困っている人々がいます。障害者・障害児が最も多いです。社会の一人一人が毎日助け合うことを考えて、彼らを手伝っています。障害児支援教育は新しい分野なので、実践的な研究が必要です。

皆さんにチャンスがあれば、ぜひ、私のふるさとのベトナムにいらっしゃって、一緒に困っている人々を助けていただきたいと思います。

2008年度 活動経過

4月6日	新入生歓迎花見（和歌山城）
5月17日	WINコンコード総会・交流会
5月18日	和歌祭渡御行列参加
8月2日	紀州ぶんだら踊り（本町）
8/23～24	サマーキャンプ（清水町）
10月25日	第17回留学生の故郷を語る集い
11月23日	大学祭 模擬店協力
12月21日	八朔狩り・植物公園緑花センター
1/1～3	お正月（ホストファミリー）
2/12～13	トヨタ名古屋自動車大学校見学とスキー旅行（ひるがの高原）
3月9日	能とジャズバイオリンのセッション（県文）
3月15日	卒業生を送る会（県公館）
3月25日	卒業パーティ

年 間 住宅紹介・入居・転居の支援
生活用品の貸与・生活情報提供
ホストファミリープログラム







WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われ
ます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798
<http://www.wakayama-info.net>

E-mail win@infonet.co.jp